

問 十和田南駅の今後の管理及び観光案内窓口の設置について。

答 トイレの再開工事後、市がトイレの管理をしていく。駅舎はJR管理のため、観光パンフレットやイベント情報の掲示などができるよう協議していく。



JR花輪線の利用促進について

問 利用促進に対する今までの取り組み及び効果、高校生への通学支援の検討は。

答 市企画の市内観光スポットを巡るミニツアーに30名、JR企画の「駅からハイキング」に42名が参加した。

通学支援については、他の公共交通機関や、市外の高校に通学する生徒との公平性の課題がある。

耕作放棄地の対応について

問 耕作放棄され、林のような状態の農地について今後の対応は。

答 遊休農地意識調査を実施し、回答に応じて、幹旋など農地の利用の調整活動を行うほか、荒廃農地は森林としての活用を提案するなど、現況にあった管理が行われるよう助言している。

農業関係について

問 畑地化を希望する水田はさらに増加が予想されるが、今後の対応は。

答 5年水張りルールの影響により今後、も本事業の活用が見込まれるため、関係会議等のほか、市広報、ホームページ等で周知していく。

質問した項目

- JR花輪線の利用促進について
- 農業関係について
- 今年度の重要施策について
- 十和田高校跡地の利活用について



録画配信はこちらから

湯瀬 誠喜 議員（鹿山会）

質問時間 30分

問 高齢者福祉施設としての機能廃止が決まったが、湯瀬ふれあいセンターの今後については。

答 当面の間は機能を維持する。老朽化のため施設改修が必要であり、将来的な在り方については地域と共に検討を進める。



鹿角市観光産業成長戦略「稼げる観光」について

質問した項目

- 鹿角市観光産業成長戦略「稼げる観光」について
- 都市間公共交通について
- 湯瀬ふれあいセンターの今後について
- 鹿角高校とまちづくりについて

問 DMOは、公社の一部署としての運営だが、現状ではデメリットが目立っていると考ええる。公社から独立のうえ、マネジメントに専門性の高い人材を配置し、職員をDMO業務のみに注力させ、地域をリードする組織に生まれ変わらせるべきではないか。

答 DMOの独立に関しては、安定した財源確保の面などで課題があり、解決策の検討を進める。今後鹿角エリア全域の観光振興に取り組んでいきたい。

鹿角高校とまちづくりについて

問 生徒の下宿費用の補助はスキー部と陸上部に限定すべきでなく、特色ある鹿角高校を地域全体で作っていく中で、市外に住む入学希望者の受け入れ環境を積極的に整備していくべきではないか。

答 下宿・賃貸利用の生徒はスキー部6名、野球部2名でありスキー部生徒6名の下宿費用を支援している。今後、鹿角高校から新たな要望や教育方針などが示された場合に他の部活の生徒への支援を検討する旨を高校側には伝えている。



録画配信はこちらから